

平成28年12月9日

第3号 (仮称) 厚田小中学校 設立準備委員会だより

発行 委員会事務局 (石狩市教育委員会総務企画課)

このたよりでは、厚田区の統合新設校(小中一貫の義務教育学校)の平成32年度の開校に向けて、設立準備委員会で検討している内容や教育委員会、学校、PTAなどの動きを中心にお伝えします。

地域、子どもたち、学校・・・ それぞれが“新しい学校”づくりを提案

11月10日(木)、第3回会議が厚田保健センターで開催されました。

第2回会議(ワークショップ)で明らかにした、厚田の地域や学校の強みと弱みを元に、地域を代表する学校設立準備委員会の取り組みとして、新しい学校づくりの提案をまとめました。

また、厚田区の小・中学生全員95名を対象に実施した子どもアンケートでは、全部で449件の意見が出され、内容ごとに分類整理したうえで検討し、「33の子どもたちからの提案」という形に整理しました。



↑ グループごとに提案を整理しました

このほか、各学校からも「新しい学校に引き継ぎたい教育活動」を提案していただきました。

このように、設立準備委員会の提案、子どもアンケートからの提案、学校からの提案の3つを整理して、年度内に「(仮称)厚田小中学校 学校整備基本計画」を取りまとめる予定です。

この便りでは、3つの提案から、ポイントとなる内容を取り上げてご紹介します。

(これらの全ては、石狩市教育委員会ホームページでご覧いただけます。)



↑ 提案内容を大きく映し出して説明しました

● どんな学校にしたいか(理想像は・・・)

子どもアンケートでは「楽しく、明るく、やさしい、いじめがない、元気なあいさつなどができる学校」「自然、文化、産業など厚田の良さを生かした学習をしたい」「聚富、望来、厚田の人達みんなが厚田区民として気持ちを一つにできる学校」といった意見がありました。準備委員会や学校からは「地域の方の協力をいただき、自然環境の活用や文化の伝承など、厚田ならではの良さを生かす」という提案がありました。これまでの伝統をふまえて、厚田の良さを生かし、地域をまとめることができる学校にしたいという希望が、大人と子どもに共通していることがわかりました。

● 小中一貫の義務教育学校への期待

子どもアンケートでは「小学生と中学生が、学習、行事、地域活動、児童生徒会、縦割り活動などで、仲良く一緒に活動できる学校にしたい」という意見が多数出されました。聚富小中学校の子ども達からは、小中併置校の経験を元に「縦割りの小中全校掃除をしたほうがいい」など具体的な提案がありました。準備委員会や学校からは、「複式学級に対応するために、小中学校の先生が協力し、小学校高学年から教科担任制を導入しよう」「学年割を6・3制から□・□・□制

(区切りは今後継続して検討)にして、小中の連携をスムーズに行おう」という提案がありました。

● 新しい学校の学習や行事は・・・

子どもたちからは、「みんな仲良く、わかりやすく勉強ができる学校にしてほしい」という希望がありました。学校からは「少人数や義務教育学校の特性を生かした学習指導」という提案がありました。また、子どもと大人に共通して「米作り体験や畑作体験、収穫を祝う行事」「地域清掃や福祉施設訪問、ボランティア活動」などを続けたいという提案がありました。子どものアンケートの中には「地域清掃や福祉施設訪問、ボランティア活動で、地域の人に喜んでほしい」という意見もありました。

校舎やバス運行に関する希望について

● 暖かくて快適な学校に

子どもたちからは、「冬場暖かい校舎に」という意見が17件寄せられ、厳しい自然環境に対応できる快適な学校を考えることが大切であると再認識しました。校舎については、バリアフリーや多様に使えるフリースペースについての意見も出されました。また、子どもたちから「たくさんの本を読める学校に」という意見があり、これを受けて準備委員会から「あいかぜ図書館を移転し、校舎内に設置してください」という具体的な提案がありました。

● 地域の中の学校として

準備委員会からは「保育園を整備して、幼小中一貫の校舎に」という希望が出されました。また、「放課後児童クラブ(学童保育)の設置」についても希望がありました。

● 柔軟で安全なスクールバス運行の希望

校区が広大になることから、スクールバスの運行は、当初から準備委員会の重要な課題でした。今回も様々な声が寄せられ、市教委としてもその重要性を認識し、関係部署と調整した上で年内に準備委員に見解を示すことを伝えました。

● 佐藤委員長から

子どもアンケートを読んで、子どもたちが純粋な気持ちで考えてくれていることがわかりました。「厚田にこんな学校があってよかったな」と、子どもたちの心に一生残るような学校を、この委員

会では作ろうとしています。子どもたちの夢を実現するために、難しいという後ろ向きな姿勢ではなく、工夫して何とか実現しようという前向きな姿勢を持って、具体的な計画を作っていきたいと思います。

各学校から運営協力の先生が参加

新しい学校づくりに向けた準備委員会の取組について、各学校の先生たちはとても注目しています。傍聴に続けて参加してくれている先生もいます。委員から「現場の先生の考えも知りたい」という話があったことを受け、参考意見を述べたり、話し合いの記録をまとめたりする立場で関わっていただくことを事務局から提案し、承認されました。第3回の会議には、厚田小学校から高橋公平先生、望来小学校から加藤亞弓先生、厚田中学校から事務職員の中川雄二さんが参加してくれました。子どもアンケートの具体的なニュアンスを伝えるなど、準備委員会の話し合いを充実させてくれました。

“義務教育学校”って、どんな学校？

平成27年の学校教育法の改正で定められた新しい種類の学校。

学校は、義務教育9年間を通した教育目標や教育課程を編成し、独自教科の設定や学年間での指導内容の入れ替えも可能。卒業は1回。

学校長は一人で、一つの学校組織として運営。

前期課程の6年は小学校、後期課程の3年は中学校設置基準を準用して、学級編成と教職員定数を定める。(教頭や養護教諭等は各2名)

現在、全国で22校。道内では、中標津町立計根別学園、斜里町立知床ウトロ学校の2校。複式の義務教育学校は全国で3校。

第4回会議 傍聴をお待ちしています。

日時 1月18日(水) 18時30分より

会場 厚田保健センター

(※荒天時の予備日 1月25日(水))

【発行】

(仮称)厚田小中学校設立準備委員会事務局

(石狩市教育委員会 総務企画課内)

電話 72-3169 / FAX 75-2276

E-mail soumu-k@city.ishikari.hokkaido.jp